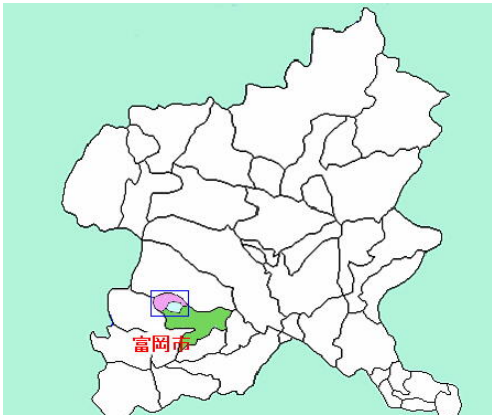
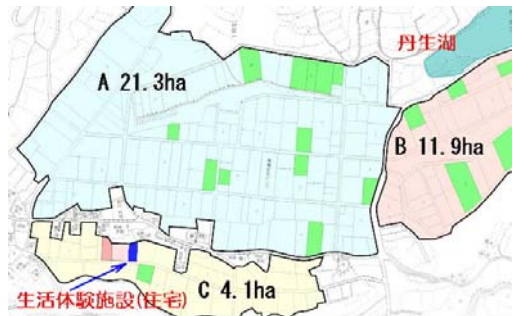


平成21年度 「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	遊休・荒廃農地の活用による定住・二地域居住推進事業
対象地域	群馬県富岡市 丹生地区、妙義地区
対象地域の概要	 【群馬県における富岡市の位置】  【対象地域1図の拡大】  【左丹生湖と農業法人の活動】  【妙義山と集落】
提案内容の概要	昨年度の遊休・荒廃農地の宅地活用提案の経験により、移住促進には体験型交流による招致が有効的と考えていた。群馬県『地域住宅モデル普及推進事業』に応募、受託により体験施設建設費の交付を受ける。施設では滞在者の農的支援や地域交流支援等を行い、合わせて遊休・荒廃農地の利活用による結び付け地域活性化を狙う。
提案する活動の内容 (1) 地域の課題	①丹生地区 上丹生地区の丹生湖一帯は、県営土地改良事業による圃場整備が進められ、平成5年C区4.1ha、平成15年A区21.3ha、平成19年B区11.9haの優良農地が創設された。(5図参照) しかし、農地所有者の高齢化や後継者不足等により、同地域の農家は、経営規模以上の農地を管理することは困難な状態にある。「新たな公」で連携する地元農事組合の推定では、A、B、C区合計37.3haの2分の1は、主に“こんにやく農家”等が借地し、最近では、それでも遊休農地が増加している。その上、借地農業者も高齢のため、10年後には殆どが遊休農地になる可能性があるという。 このような現状のなか、平成15年地域住民(農業者)のボランティアグループにより、管理が出来なくなった農地、5図の緑の部分2.5haを借り受け、そば、ひまわり、小麦等を栽培し農産物を販売する活動が行なわれた。その後、農事組合法人こだま農産物生産組合に発展し現在に至るが、規模が小さいことから経営状態は厳しい状態である。 また、農事組合も不況の影響を受け、人手が集まらないときもあり、管理できない借地対策として桑を栽培し、世界遺産暫定登録された富岡製糸場の土産物として「桑の実ジャム」の加工販売等を移住者と協働で実現したいと考えている。このようななか、昨年度の採択により農業体験えを実施、移住者の集まり『富岡・かんら移住者連絡会』が発足、農事組合との交流が生まれ、将来の協働が現実のものとなった。 移住者を招致し、新たな視点で農地の活動やコミュニティ創生につなげることが、地域活性化結びつくと考えているが、この不況下で活性化に結びつく移住者を招致することは並大抵のことではない。そ  【5図 土地改良区と生活体験施設位置】

	ここで、移住のきっかけとなる農村体験施設の必要性を痛感していたが、国交省の『地域住宅モデル普及推進事業』で、体験施設建設の募集があり応募、群馬県より採択され実現となった。 この生活体験住宅は、単なる滞在住宅ではなく地元材を用いた低価格モデル住宅を兼ね、平成 21 年 9 月中旬には完成する。農事組合や地域との交流を図りながらの滞在は、地域を知ることによって移住促進につながると、期待されている。【参考資料 01 施設平面図・工事見積書】 ②妙義地区 妙義地区は、全域が旧妙義町で平成 18 年 3 月富岡市と合併する。水田は群馬県では最も西に位置し、関東平野の最北西部の水田にあたる。水田と云う優良農地の端からすぐ中山間地となり、畑のみが荒廃農地となるケースが多い。 NPO の調査から、移住者は菜園やハイキング等のアウトドアを目的する者が 70% を超えることがわかっていて。このため、妙義山と云う自然環境の中で菜園を提供することにより、移住者の招致を図る。 妙義地区では、すでに 7 組が移住し 6.5 アールの荒廃農地が菜園や宅地として活用されている。不在地主から荒廃農地の活用依頼が多く寄せられるが、不況により活用に至っていないのが現状である。移住の促進には、NPO 単体での PR には限界があり、国の Web サイト等、国レベルでの周知活動が必要と考える。
(2) 活動内容の案	活動①： トータルコーディネートによる移住者支援 定住・二地域居住者受け入れ促進のために、NPO 法が中心となり、トータルコーディネートを行う。昨年度の継続事業で主な内容は次の通りである。 【首都圏における PR 活動】イベントに出展しての PR 活動は、昨年の経験から一定の地域を絞り周知することの方が効率的と考える。例えば、マンション管理組合や自治体等を対象に広報誌等で周知する。今年度、富岡市と中野区の交流事業が発足。市の協力をえて中野区民に周知することを予定している。 【移住希望者の案内・相談】昨年は、不況の影響で生活苦による“田舎難民”とも云える問い合わせが多かった。今年は、「この人が移住したら地域はどのように変わるか…」等と移住者のコミュニティ創生の貢献度をイメージし、案内・相談を行うことが必要と考える。 【定住・二地域居住促進の啓発活動】群馬県内に於いて、今までの経験を生かし地域性を考慮した啓発活動を行う。対象は、NPO 等の団体や自治体である。 活動②： 移住者連絡会の支援 20 年度の受託により、移住者の集り「富岡・かんら移住者連絡会」（仮称）が発足したが、発足間もないため、NPO の支援を必要としている。それは、活動は会員相互間の交流と地域交流を目的としているため、地域に精通した人を必要としているからである。 移住者は、③の滞在者との交流を活発化し、しいては地域住民を巻き込むほどに交流の輪を広げ、コミュニティ創生につなげる。 活動③： 生活体験施設の運営 10 月より『生活体験施設』を管理運営する。生活体験施設は、移住者向けの小型モデル住宅を兼ね、補助金主で建築するため、仮設、期間は 7 年の予定である。 1 組が 1～4 ヶ月程度滞在し、家庭菜園の試行や農事組合との「農」的交流、また地域住民との交流等により、移住後の地域交流に対する不安材料を取り除くところにある。 本年度は施設（住宅）の自立運営までには至らないが、滞在者の募集、建物管理、菜園や農作業等の指導、施設見学者の案内等を実施し、自立運営に向けて足腰を鍛える。
応募団体名	特定非営利活動法人 田舎暮らし支援ネット
リンク	http://www.npoinaka.org/
部局／担当者名	並木 芳治
連絡先	0274-63-6522／090-1122-9154
推薦市町村名	富岡市